



一步、前進

高瀬中での学びを全国に発信

先週11月10日、中学校国語科全国大会が、観音寺市立中部中学校と本校の2会場で開催され、計6校の公開授業が行われた。

大会委員長という立場ゆえに、全体のことを見渡さなければならなかったのだが、やはり本校2年3組白川学級の公開授業が気になり、多くを授業会場であった体育館で過ごした。その少し前、授業を控えた生徒たちの様子が気になり、他の生徒たちが下校した後、待機している教室に行き声をかけたのだが、元気のよい反応が返ってきたので、幾分安心して本番を待つことになった。

授業では、普段通りに白川先生が生徒たちの様子に気を配りながら落ち着いた様子で語りかけている。生徒たちも先生の言葉や友達の言葉にしっかり耳を傾け、考え、自分の言葉で意見を述べている。体育館という広い空間の中、生徒の周りでは何十人もの参観者が注視しており、張り詰めた空気の中で、それでも授業に集中し、学習課題について学びを深めていく生徒たち……。

以下は、県内外の参加者からいただいたアンケートの中で、生徒の様子について書かれてあったものの一部である。（たくさん褒めてくれていました。）

- ・ 自分の思考を自分の言葉で他者に説明できる生徒さんが多く、すてきでした。「国語が好き」という生徒さんの育成がなされていることにとても納得した1時間でした。
- ・ 生徒も先生の問いに精一杯答えられるように一所懸命考えていて、さらに発言を求められたら自分の意見をスッと言える姿に感動しました。そうなるまでの日々の授業の取組もすばらしかったのだと容易に想像できる授業でした。
- ・ 生徒が恐れることなく発言できていることにも感心した。普段から意見をもって、それを自分の言葉で表現できる授業をされていると分かりました。

生徒たちが皆自信をもって授業に臨んだわけではないだろうが、この経験には大いに自信をもっていい。そして、他の教科、他のクラスでも、よい学びの姿がさらに展開されていくことを期待している。

（校長：佐藤 浩二）